

和し鍛え学ぶ

早いもので来週から12月に入ります。ついこの間体育祭が終わったと思ったら、もう防寒具が必要な季節になりました。ニュースでも話題になっているようにインフルエンザが流行しています。幸い本校では今のところ爆発的な感染状況は見られませんが、市内では学級閉鎖に至った学校も多くあります。抵抗力を落とさないよう食事や睡眠を十分にとりつつ、手洗いやうがいといった衛生面に気を配って元気に過ごしてほしいと思います。

決めること

12月を目前に控え、いよいよ3年生は受験校決定の時期を迎えました。先日、第3回定期テスト（3年生だけ9教科）を終え、現在、進路希望調査を行っています。

何かを決めることはとても大変です。時間があればあるだけ迷います。15歳の子たちにとって人生で初めての大きな決断ですから、自分の選択がこれでいいのか不安になるのは当然です。最後に決めるのは自分です。決めた以上は迷わずに努力することです。自分で決めたことだからこそ頑張れるのではないのでしょうか。

来週は個別懇談会を行います。保護者の皆様におかれましては、お忙しい中お時間を作っていただきありがとうございます。3年生は進路の話題が中心になると思います。保護者の皆様には人生の先輩としてお子さんとしっかり話をしていただき、お子さん自身が自分の選択に納得して踏み出せるように温かく支えてくださると嬉しいです。



見送る

学校には多くのお客さんがみえます。その際に私が大切にしていることがあります。それは「見送る」ということです。教員としてまだ駆け出しの頃、私の業務に関係する用件で勤務校を訪ねてくださった方がいました。その方がお帰りになる時に、校長先生も一緒に玄関でお見送りをしてくださり、小さい声で「見送るというのはね、文字通り『見て送る』ということだよ」と教えてくださいました。それ以来、私も来校された方の姿が見えなくなるまで、あるいは車が角を曲がって見えなくなるまで見送るよう心がけています。



見送りには「さじ加減」も大切です。相手の方が振り返ることもありますし振り返らないこともあります。相手が振り返ることを期待して見送るわけではありません。また、車に戻ってから次の用件などがあってすぐに出発されないこともあり、こちらがずっと見送ることで相手に余計な気を使わせてしまう可能性もあります。相手に負担を掛けないことも大切な心配りであることを「見送る」という行為を続ける中で学んだ気がします。もし、相手が振り返った時に門がガラガラ閉まるのを目にしたら、あるいは、さっさと建物の中に姿が消えていくのを見たら、何となく残念な気持ちになるのではと思います。「見送る」という行為一つとっても心の交流や思いやり、気遣いが存在します。大切なことを教えてくださった当時の校長先生に感謝しています。